135
1
48

法のおしえ

全

015926-000-9

特16-757

法のおしえ

中尾　国太郎／編

M22. 10

ABC-1748

№22964/22

緒言

鳥居繁吉

吾人は佛教を信ずるを以なり、佛教を外にしては又我帝國臣民の當さに奉ずへき宗教なしと迄に篤信をるものなり、故に吾人は常に此の佛教を宣揚擴布して以て皇帝陛下の聖恩に報へ奉り、下社會民衆の福祉を增進せしめんとを祈るを以なり。然るに吾人今熟ら吾宗教界の現象を觀察をるに耶蘇教獨り其勢力を逞して佛教却て漸く將に萎靡不振乃否境に沈まんとをるが如き傾きあり、抑も佛教としてこゝに至らしめたるものゝ果を誰ぞや、僧侶諸氏の其責を辭をると能はざるおりと雖も獨り之と僧侶諸氏にのみ歸するは非なり、吾人佛教信は亦其幾分を擔はざるや論を俟さざるへし、果を然らば吾人は其學淺く其才短なの故を以て徒らに其手を束ぬべからず、須らく進て僧侶諸氏と左提右携をて以て大に吾佛教の教義を宣揚し、彼れ耶蘇教とを以て吾宗教界に顏色なからしめんとを勉むべきなり、是吾人が敢て其謭劣を顧みず叨りに本誌に從事するに至りたる所以なり、大方乃信男信女幸に之を諒せよ

本誌れ發行

中尾國太郎

私が此處に佛教と申のた佛教ゑ中れ是の宗派彼の宗派と色々宗派れ有中の一つれ宗派を指ヲ申のでは有ませぬ始め釋迦牟尼世尊れ說うれゐる所の完全ゐる佛教を指して申ゑで有ます

總て人間の幸福國の安寧と保ち得る處のもれは必ず佛教によらねばなヲませぬ佛教は宗教の最も宜き最も信ずへ紀處れ宗教で有まして真正の道理と備へ學理上に協ひ人間れ感情ゐ適ひまして社會の真理德義を守るゑを基と致はす夫れ故ヨ人々此真理と悟り以て心れ基礎と致せば即ち家富國榮の基て有ます若しも人々が此真理と棄て顧ませなんだなれば自分一身ばかりでは無く即ち國家れ安危ヨ係ゐるとて有ます社會た人間の聚合体で有まするら人間が真理を缺けは取りも直さず國体が真理と缺ゑで有て升一說ヨ申て有ますに宗教は良心れ母ゐり又人として胸裏に宗教の土臺無き程飮呑なえのたなしと申て有升誠に其通りて有ます假令と以ヲ申ヲ見れば茲ヨ大厦或は高臺と作り永遠ゐ保存ヲせよふとゐるヨた先づ第一ヨ其基礎土臺を堅固ヨ致さねばなりはせん若ゐえ其土臺基礎が不完全ゐして充分なる注意が行居てとりません時ヨはその家や臺の構造は

假令何程れ大金と費ゐ金銀玉石を鏤め華美華麗ゐ致ま為て之を見る人々一目みて驚き退て歎賞數剡ゐ及ぶ位て有まーても一朝風か起れば風の爲ヨ傾き雨ら降れば雨の爲に窪みまして遂に頽壞の難を免かるゝと云とえ迚も出来る氣遣を御座いません人の心乃確と確でないや云ゑ之と同樣で有まして心中に堅固ゐる宗教心れ土臺が有と無とヨ由るので有升俚諺に云て有に塵垢た明鏡とえくらせ情と慾とて良心と害すと申で有升誠ゐかんしんな戒で有升總て此世の中の物ヨた皆其數れ限てが有升が人れ慾は限りの無もの乃で有升故に動もをるや慾の爲に良心を害ふとが有升併乍鏡は箱或た蓋を為て塵垢を防ぎ良心た道德を以て情慾と防ぎさへすれば鏡の々もると云とえ無或は又良心と害と云とも有ませんよつて世れ中の得難き物を寶とせず只善ゐ以て寶とすと云心得ヨて佛教を心れ土臺と為道德を以て塔塀どをれば如何なる剛鉄を以て築き上たるよりも堅固に為て如何なる大石を以て積重たるよりも猶堅固で有まーて決為て暴風の如ち金錢の爲に良心と傾け淋雨の如き情慾れ爲に良心を破る抔と云樣なとは誓ヲ有ません古語に曰て有に道德は身を守るれ門戸墻屏なヲ一身以ヲ脩り一家

渾て能く治む一家治まれば之一國と治むるれ基本さりと云て有升之即ち社會真理公道の然らしむる處で有まゑて真理なるものゑ人間ゔ良心て有升總て社會ゑ真理によつて經論し人の權利は真理によつて保ち綜義は真理によつて和解志衆生は真理によつて解脱するので有升今此世に暮ゟ居る人々強さは弱さを殺ず重は輕を壓す能其平均を得ゟ無事ゟ世に處するとを得は偏ゟ真理の然らしむる處で有升嗚呼誠ゟ大なるは此真理の勢力で有升之と以て政ゟ施は國治り人ゟ

施は人を救ひ升佛陀聖人賢人何れも皆此真理と悟了人と教導ゆしたので有升實ゟ真理ハ世と救民と救升非真理は世と惑ゑ民を害升實ゟ恐可きは非真理ゟして心ゟ育可きゑ真理則宗教心で有升々々々茲於ゟ愈益進て佛教の擴張を思付まして即之ゐ從事致升所以て有升然るゟ我國現時れ有様ゑ政治外交の論諸所に起りまゑて彼所ゐ甲主義れ中止建白有ゑ此處にゑ主義れ斷行說あり西に糊口演說あれは東ゟ杞憂志士の演說あり南ゟ何派の團結あれゑ北に何黨乃組織何倶樂部の企あり商賈も政治雜誌を懷ふし農夫も鍬と仗に政治と談ずる有様ゐして誰ても彼ても政治てなけねは無意氣て夜があけぬと云ふ位の形てあゑますゟら宗教ゑ政治と親密なる關係乃有のと以て進て佛教擴張ゟとりかゝゑまゑたれて有升然るゟ彼の西洋崇拜連中或ゑ輕薄才子連中は一ゐも西洋ニにゑ西洋何でゑ蚊でゑ西洋でなけねばならぬ宗教も西洋でなけねばならぬ歐米列國處として基督國で無い處はない人として基督宗徒でない者ゑ無ゐ何ぞ文明の今日に夷狄れ一法たる流行をくれの佛教杯はむゑき杯と日本固有の佛教れ何ものたると知らず妄りに度外ゟ視する形蹟が有升此輕薄才子ゑ國と重ゑ義と守の節操なく我國と指ゑて野蠻と云ひ人を指て奴隷と云ふ杯徹頭徹尾空論をことゝし升併し一時其云處ゑ高尚其說處ゑ巧ふゑて口先に一天下れ法律と論じ手には全世界の政權と專らにするが如きゑ其言處ゑ其行處と天地雲泥ゔ差にして獨り空論ゟ止るのみ僅か國の一分子で有自已一身の生活の出來ぬ者もあり或又貪欲の爲に一枚乃舌を二枚に使ひ二つの眼と四方に配り表に褒裏に誹り人をたとし已れ起んとするもあり或又彼れ葛や藤れ如く仗と索め柱と索め人によりて衰を乞ひ主義ゑ月給或は人乃爲に變り說ゑ衣食住の爲に變る者もあり或は主義も目的も問ず獵りゟ勢力に雷同し尾を動かして食に走り頭を垂れて財と索ゑ既ゐ

身は獸行獸心の人となると知らず思慮もなく分別もなくして過る者もあり或又妄てゝ今日れ機に乘じ喋々喃々政治上れ空論と以て已れが器械とし交際の二字を肩に掛け調子よく己が名譽評判と賣り傍ら金儲の利器とする者えあり或又已ら巨萬の富にほこつて人を輕々視する者えあて或又名と公益に藉て私利と恣にする者もあり或又其責に當て其責を盡さゝるえのあり或又權門に出入して寵と冀ふ者えあて等實ふ千狀萬態て有升之則ち心に確なる土臺のなきよて終に世に忌み嫌可れ輕薄才子の名を以てせらるゝに至て升故に宗教心を育ひ是等の惡魔非眞理弊風を萬里海外へ放逐し益々我國をして安寧幸福れ國となし國威を世界萬國に翹さんとを諸君と共ふ勉めんと望む所て有升

然るに近頃一般人民政治思想れ發達して來まゝあのむ誠に喜はし充とで有升素より此國土に生れ此國土に教育を受け此國土の政治空氣を呼吸し此國土に成長をる限ね人とゝて最も政治思想がなけねねなりませぬ然るに前に述升通り政治と宗教とは親密なる關係と有〜密着相離ざるところれえので有升て謂所社會れ宗教の反射で有と云位で有升から即ち政治思想あれば宗教心あて宗教

心あれば政治思想乃有のは云はすゝを明で有升宗教心は善良なる人間れ思操を保させ此思操として撓ず屈せず貫徹をるを主る處れ謂所先に云如く家なれ基礎土臺で有ゆを草木なれば根で有升由て此根元ゐる宗教心と育ひ胸裏に堅固なる處れ鉄城と築た後政治なり商業なて何なり故なり思想を起すのが順序で有升總てものにれ何に拘泥ず本と末が有て始め終りの無と云ものは有ませぬ然るに若ゝこの宗教心と疎んじ只已が思ふが儘にすると望み升のは恰も彼れ草木の根と撥さゝに加ふるに培養せずゝを徒らに其葉の青と望むが如を將又田畑を耕作するの勞と厭て秋の收入と望が如で有升況や社會に立て刺擊の衝に當らんをするに於ては充分に宗教の眞理に基き思操と堅固にし石腸鉄心火に入も燒れず水に入も溺れず命れ國家の犧牲に供ゝ節義は之志士の性命なをと云ふ思操がなけねはなをませぬ彼原野にある蓬穗れ一吹の風に飛散する樣な精神にてれ迚も志をとぐることはできません故に政治家農業家工業家商業家帝國人民何つれも皆佛教篤信の人とならんとと望んで已まざる所で有升由て此度佛教れ擴張とはかるにつき此冊子二千部を諸君に進呈ゝ世れ中の人の佛

教は死人を扱時のまじないおりと誤り僧侶は寺や位牌の守と誤り佛教の本分を
ゑ知らずかゆせず打過る人は注意ゐ爲或はせれ輕薄才子をして真理を知らゑめ
朝ゐ非と夕れ是と改ゑさせんとと勉ゑ且進て佛教擴張に從事し太陽の東天にの
ぼるが如く佛日と共に我國の光をして益々光輝ならしめ諸君と共に安寧幸福鼓
腹擊壤の安さゐ生息せんとを希望致升同胞乃諸君を願ゑは私れ不知不才にゑ
て且文字文章ゐ疎く前後錯雜する處を咎めずして只私が佛教熱ゐ犯されたる
處と愍察あつて獨り意の在る所を推究あらんとと希望して已さる處で有升

○新御門跡一月廿八日御影堂ゐ於て御親教の大意

仰て惟れゑ釋迦ゐ此方より發遣し彌陀ゑ彼國より招喚ゑ玉ふ乃至豈去らざる
べけんやを此文ゑ善導大師玄義分ゐ述べ置かせられさ御言ゐゑて末代今日れ凡
夫の解脫ゑ難きによりて釋迦は此土よゐ發遣し玉ふ彌陀は彼より招喚し玉ふ今
日の凡夫ゑ生れ難き人界に生と受け別して佛法流布の時ゐ際し彌陀の本願と聽
聞することゑ實ゐ喜びの中の喜びと申さねばならぬ付てゑ出離解脫れ心なく日
を送るならゐ水に入ゐを垢れちずの風情故日頃の惡心とひるがにしかゝる者を助
け玉ふは彌陀釋迦二尊なりと我心は佛に任せ奉ゐ娑婆滯在れ其間は王法仁義
を相守り二諦相依を大切に守ゐ我身ゑ既に光明攝取れ身たる事を忘れず臨終の
夕迄佛恩報謝の念佛と共々に法義相續が肝要

右演說

只今の御親教各々拜聽致されし通り御綿密なる御示ゑなれども併し乍ら愚な者
の心の中ゐ落付樣に割つ碎きつ演說に及べとある御沙汰と蒙りしとじやで各
々大切ゐ聽聞致されよ

一等學師補　廣陵了榮

一天無二なる御真影れごぜん根本道場たる此御堂ゑ跪きて真の善知識の御親教に遇ふ奉ることは苟の縁てはなふ大經の中にも若人無善本不得聞此經と御說あらせられて宿善がなけれも此の如き御法席ゑ列おることも出來ぬぞよ

道綽禪師は安樂集に說法法規と云と示させられて即大集經を御引なされ說く人は大醫王れ思となせ聽く人ゐ大病人れ思となせ御示を下さる御法りは甘露の思となせ醍醐の思となせとある今御親教下さるゝ往生の善知識も大醫と申えの聽聞する各や吾等は、大病人れ思となさねもならぬ、九死一生も云も更なり難治の三病難化の三機と畢竟なをらぬ大病人じや、十方諸佛れ醫師れ手が切れ八萬四千の藥力えつさて所謂癲狂癩と云ふ如き癒る事なき大病人今を最後の枕元ゐ治をてやると云醫者れ良藥と呑む時も看病人ですらも浮さこゝろを餘所見は出來まい況して病人の心ても一間の内も沈まりきり門口までも靜まるはづ然るゑ各々も大病人の思ひれなれもとよゑ看病人ほどゐも心が靜はらずにウカ〳〵聞ては大醫王より下さるゝ良藥の信心も頂かれぬぞよ病を癒れ思ひゑなれよ本願醍醐は妙藥を戴くも只今此座ぢや程ゑ御大切ゑ聽聞あれよ

さて只今御新教れ釋迦は此方にしゑ發遣ま彌陀は即彼國より來迎す彼に喚び此母遣す豈去かざる可やと善導大師れ御釋と御示下されたが此御心と二河白道の譬喩合法の御文れ脳して伺へも仰で釋迦發遣まて指て西方れ向わまめ玉ふことを蒙り、又彌陀の悲心招喚し玉ふれ籍て今二尊れ意れ信順して水火二河を顧ず念々れ遣するゝとなく、彼の願力の道れ乘ぜよと、釋迦彌陀二尊の御勅命れ隨い奉る順ひ心が信順と云ふもれ、こゝと我祖大師れ銘文れも歸命と云ゐ釋迦彌陀二尊の召れかなうなりと御釋なされて彌陀釋迦二尊の勅命をあるのがとをゑ直さず二尊の御意のとぢや依て二河白道でも二尊の御意と何ると銘文ゑもえ二尊の勅命と仰られた、又行れ卷れ歸命の歸の字ゐ付て告なゑ述なゑ、人の意と申述るなりとれ王ふ源と此御釋の二河白道乃合法れ文れ御依りあらせられた者ゑしゑ釋迦彌陀二尊れ勅命とは西の岸れ喚聲東の岸ま喚すゝむることへ其喚聲もすゝめごへも一心正念にして行けよ來れよとの王う二尊一教ゐ勅命ぢや此れ勅命れ信順をるれが一心なり歸命なり彌陀をたれむと云ふ二尊れ仰れ順ふ、ま為がい心ま為や此が取もなとさす、よゑたれむなり、よりゐゝるなゑ、木

像もれ云わず經典口なき彌陀如來は、繪像木像は、もれはをゝせられぬ、又釋迦の遺教ゴ口わない然れば二尊の勅命と云は今日只今頂き奉御親教、真の善知識の御化導が二尊の勅命と云ふもの、此知識傳持の佛語に歸屬するゴが彌陀をさのむと云ふもの然るゴ佛体だれみや、三業歸命のやからは、善知識のをしへとば、月と指す指びの如をとし彌陀をたのむと云ふは、彌陀と衆生と、直應對なぞと心得誤るものが佗る善知識の御化導を聞き得る一念が信を得る時なり彌陀とたのむ時なを故に聞た上ゴ繪像や木像丹向てたのむのではない、善知識れ御化導取りも直さず二尊の勅命に信順するが彌陀とさのむと云ふものじや依りて改邪鈔れ中ゴはまづ能化所化をたて、自力他力を對判あて自力とすて他力ゴ歸ゑ能化れ說とうけて所化は信心定得することを今師御相承の口傳には、あゐかなゐはんべれ」と仰せらるてある此御指南より伺にば、只今れ御親教が能化の說と云もの其仰せを大切に聞をが信心定得と云えのぢや至ゑ堅牢は石なり、至てやわらかなるを水なり水能く石を穿つ心源若微しなば菩提れ覺道何事か成ぜざらんと云、古き語あり、いかゴ不信なをとも聽聞と心に入て申さば御慈悲

ふて候あゐだ信と得べきなをと中興大師は御示下されていかゴ末世の身なをえとて聽聞を心ゴ入て申せれ自から信心が得らるゝ、妄を經には聞其名號と、聞一念が信心歡喜と、たれむ心れとこりどこぢやと、御說き成れて佗る故ゴ、執技鈔にれ、善知識れことはろ下ゴ歸命の一念發得せれ其時と以て裟婆のおはり、臨終と思ゑへしと仰せられ改邪鈔にれ此の娑婆生死の五蘊所成れ肉身未壞れずとも生死の流轉れ本源を繫く自力迷情共發金剛心ゴ一念に壞られて知識傳持佛語ゴ歸屬するところ自力をすゑゝ他力に歸するとえ名づけ即得往生とも倣いはんべれとれ玉ふ然れえ善知識れことはれ下ゴ歸命ゴ一念起るとえ、又知識傳持の佛語ゴ歸屬をると他力に歸するとえ名つくと佗れば聞其名號れ一念に歸をるとも名くとあれば聞其名號の一念に往生ろ信樂と獲得すると教玉ふが當流れ御相傳じや依て善知識の御ことばが二尊れ勅命其の仰せに順たがふのが歸命と云もの、併ゑ乍聞て疑ゑず持て失なはすとあれは聞いたなり受さなりてはない持て失なわずと、聞一念にたれむ心が起ら祢はならぬ其起りところえ行者機の上に起る心は佛智回向ゴ他力の信心れ信心其信心其もらい時は善知識ゴ御教化と

聞き只今が貰ひ場じやそて次に即得往生ともならひはんべれとあるね往生の定るは臨終ろとでねひ五濁所成れ肉身未だ壊れずと、女は女のまま男は男れなまま未だ軀ねやぶれねども生死流轉れ本源と撃ぐ自力の迷情とて彼様心得るろがたれむのじや欲う思ふが信心じやと行者自力ろ企て意が共發金剛心ろ一念ま壊れてと迷ひれ種とな彩自力が壊れたれね他力ま一念が起る其起ま たるたのむ一念の時が長ま迷れ命の切れ場じや故へに最要鈔には身の命ろ盡ると心の命の盡ると御分けなされまある身の命の盡ると云ま臨終れ夕べ此軀ろ霊れ出ま逝く時のこと心れ命れ盡るとはたれむ一念の時が長の迷の命れ盡場じや超せれ悲願聞ま ま我等は生れ凡夫かね煩悩の織身ねかわらぬど心ま浄土にすみあろぶ五濁所成れ肉身ま未やふれず崩ずれねどされむ一念れ其時が迷れ命れ最切まして早光明れ中に攝取せられ浄土の人数となりた身じやぞよ、依て只今の御親教に光明に照護せられし身ま やぞよと、仰せられ端身正行と云ふて身をつゝしみ心にたしなま玉法仁義れ道と守らねまならぬと御意遊させられた、此の王法拭本とせよの御示しは今日れ政府に對ま御追従の御語ねなろとま思ま ま なね當流正

依れ本經根本法輪たる大無量壽經ま端身正行、獨作諸善と御說なさまて是れ全く釋迦の金言真宗れ掟じや程に已に我身ま煩悩に眼さへられて攝取の光明見ざれども大悲懶さとなくて常に我身と照すなり極樂浄土より遠く隔てゝ御覽てねなゐ御佛檀の中よりすき覗きしての御覽ではない形ま影れ添う如く夜晝常に攝取の彌陀ま御詠ま詰ま や又彌陀如来斗りてはない天地に滿る善神まで晝夜常ま御守下され十方無量諸佛も百重千重圍繞しま、よろこび守り王ふなり右を詠むれば十方諸佛左りと詠むれば八百萬神々夜晝常に付副守もりて下さる而も冥の御照覽と云て形ばうりを御覽でなゐ心れ底まで透徹まて御照覽ぢやと思へば形に不似合れ振舞れならう道理ま ない、併乍ら煩悩是足の凡夫なれば心に邪見の萌すこゝもあろうが冥の御照覽ま恥恐れてそれを改め正さねばならぬ依て御親教にね玉法仁義の道と堅く相守れと御懇に御示下されさ此れが真宗の御化導を蒙むる念佛行者の振舞と云ふもの長席に及へば演說は是まで

明治二十二年十月五日印刷
明治二十二年十月~~六~~五日出版

編纂人兼印刷人　中尾國太郎　愛知縣渥美郡豊橋町大字本町五十二番戸

發行人　鳥居繁吉　全縣寶飯郡白鳥村大字小田淵村八十二番戸

印刷所　有終舍　全縣名古屋市傳馬町七十番戸